

題字　小笠原　孝

第34号
令和8年11月1日
発行
一般財団法人
小笠原アカデミー
教育振興財団
理事長
小笠原　勇人

〈事務局〉
〒040-0061
函館市海岸町9-18
TEL 0138-84-5396
FAX 0138-84-5397



二〇四〇年代の社会を支える子どもたちを育成するために

北海道教育庁
渡島教育局長
長居成好

本年六月に、時代を象徴するような報道が一部メディアからありました。アメリカのＡＩ開発企業であるAnthropicが、国家安全保障上の懸念があるとアメリカ政府の命令を受け、最先端のＡＩモデル「ClaudeMythos5」及び「Claude Fable5」の提供を停止したというものです。このＡＩモデルは、システムの弱点や脆弱性を見つけ出す能力が極めて高く、サイバー攻撃やインフラ破壊への悪用が懸念されることが理由の一つとして挙げられています。七月には提供が再開しているということですが、ＡＩが人間の思考を深めたり、広げたりするパートナーとして活躍する一方、単なる検索ツールを超えて、実社会における安全・安心な暮らしを揺るがす存在にもなり得ることを実感させられるニュースでした。

こうした、生成ＡＩなどデジタル技術の発展に加え、深刻さを増す少子化・高齢化、協調・競争と分断・対立により混迷の度を増すグローバル情勢、気候変動に伴う自然災害の激甚化といった大きな変化が相まって、社会や経済の先行きに対する不確実性がこれまでになく高まっております。

子どもたちは、こうした激しい変化が止まることのない時代を生きていくこととなるため、教育の果たす役割と責任は、ますます大きくなると感じているところです。

さて、現在、文部科学大臣の諮問機関である中央教育審議会において、二〇四〇年代の社会を支える子どもたちを育成するために必要な教育の在り方について審議されており、この冬には答申が示され、今年度末には、全国の学校の教育課程の基準となる学習指導要領が改訂される予定です。

改訂される新しい学習指導要領では、多様な子どもたちの「深い学び」を確かなものとし、生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、自らの人生を舵取りすることができる民主的で持続可能な社会の創り手を育むことを狙いとした教育課程や授業の在り方の具体が示されることとなります。学校教育においては、一人一人の「好き」を育み、「得意」を伸ばしながら、それらを原動力として学び全体への動機付けを図っていく取組と、当事者意識を持って自分の意見を形成し多様な他者と対話や合意を図る取組を同時に進め、これらが有機的に関わり合い高まっていくような教育を実現することが重要となります。

また、このような教育を実現するための仕組みの一つとして柔軟な教育課程の編成を可能とする「調整授業時数制度」が導入され、各学校や地域、児童生徒の実態に応じた柔軟な単位授業時間の設定や各教科等の授業時数の調整、特色ある教育や教員の研究・研修に当てる時間を生み出す裁量的な時間の設定などの要件や考え方が示されることとなります。

このような、新しい学習指導要領の理念を学校において実現するためには、学校関係者が子どもや地域の実情を踏まえながら必要な改革を躊躇なく進めることを可能とすること、各教科等における探究的な学び、知・徳・体のバランスの取れた教育活動、デジタルの活用とともに実体験を伴う活動等を充実させることなどが重要であり、そのためには、地域の住民等と連携・協働し、学校と地域が相互にパートナーとなって子どもたちの成長を支えていくことが大切です。

渡島教育局といたしましては、貴財団をはじめ、各学校、教育関係機関と連携・協働し、「自他のよさを活かし、主体的に学び、持続可能な社会を創る人を育む」ことを管内教育推進の重点に掲げ、全力を尽くしてまいりたいと考えております。

結びに、小笠原アカデミー教育振興財団の長きにわたる渡島の教育の質の向上に向けた御支援に感謝するとともに、引き続き一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

令和8年度　書籍・書架一式贈呈式　9月24日　中央小学校に於いて



＜小笠原勇人理事長より、各校代表に目録の贈呈を行った。＞


小笠原勇人　理事長


川原弘成　教育長


木村雅彦　教育長


加藤隆行　次長


各校長より図書室についてのお言葉をいただく


お話に耳を傾ける生徒会・児童会代表

お礼の言葉＜函館市立中央小学校　6年　佐藤　光＞



小笠原アカデミー教育振興財団の皆様、たくさんの素晴らしい図書と書架をプレゼントしてくださり、ありがとうございます。中央小学校の図書室は、普段からたくさんの児童が利用していますが、新しい本をいただいたことで、みんなが図書室へ行く楽しみがさらに増えました。いただいた本を、仲良く大切に読んでいきます。本を通じて新しいことを学び、自分の世界を広げたいと思います。本当にありがとうございました。

♡♡♡　お礼のお手紙　♡♡♡

●函館市立高丘小学校　児童会代表　6年　吉田叶太朗

小笠原アカデミー教育振興財団のみなさん、このたびは、たくさんの本と書架を寄贈していただき、ありがとうございました。わたしたちは本が大好きで、学校生活のさまざま場面でたくさんの本を読んでいます。みんなが新しい本を見て喜ぶ姿が今から目に浮かびます。これからもいろいろ本を手に取り、楽しく読書をしていきたいです。本当にありがとうございました。

●北斗市立谷川小学校　児童会代表　6年　田島獅穏

小笠原アカデミー教育振興財団の皆さん、この度は私たちがリクエストした素晴らしい本を寄贈していただき、本当にありがとうございました。たくさんのすてきな本が届き、全校のみんなも「早く読みたい！」と大喜びしています。いただいた本を一ページずつ大切に読み、これからもたくさんの本に親しみながら、自分たちの成長につなげていきたいと思います。いつも私たちのことを温かくサポートしてくださる小笠原アカデミーの皆さんに心から感謝しています。これからも読書活動を一生懸命がんばりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

●北斗市立茂辺地中学校　生徒会代表　3年　川井大宗

小笠原アカデミー教育振興財団の皆さん、この度は茂辺地中学校に書籍と書架を寄贈していただきありがとうございました。私達の学校では、図書委員会の企画で定期的に読書交流会を行っています。一つのテーマを決めて図書室から本を借り、朝読書の時間や家で読書をします。これからは、頂いたたくさんのほんの中から一冊選び、読書交流会をより一層楽しく充実した時間にしていきたいと思います。
本当にありがとうございました。

★令和8年度　贈呈式出席者★

●函館市立中央小学校	校長	若林慎也
	児童会代表	佐藤　光
	教頭	竹内昭夫
	担当教諭	成澤玲奈
●函館市立高丘小学校	校長	東谷公義
	児童会代表	吉田叶太朗
●北斗市立谷川小学校	校長	沢田慶毅
	児童会代表	田島獅穏
●北斗市立茂辺地中学校	校長	古川典之
	生徒会代表	川井大宗

教育局・教育委員会（贈呈校の推薦をいただく）

●函館市教育委員会	教育長	木村雅彦
●北海道教育庁渡島教育局	次　長	加藤隆行
北斗市教育委員会	教育長	川原弘成

来席・函館市教育委員会／八重樫　泉　主査／冨田好美　主任
来席・㈲スクールカドワキ　代表取締役社長　門脇義高

理事長からのあいさつ

学校への書籍の寄贈については、読書の大切さを知って頂きたいからです。図書に親しむことは大事な事であり、読書によって沢山の知識を身につけること、冒険やチャレンジすることで、未来が開けることです。生徒・児童に、本を読めといっても、学校の図書室に自分の読みたい本がなければ気がむきません。

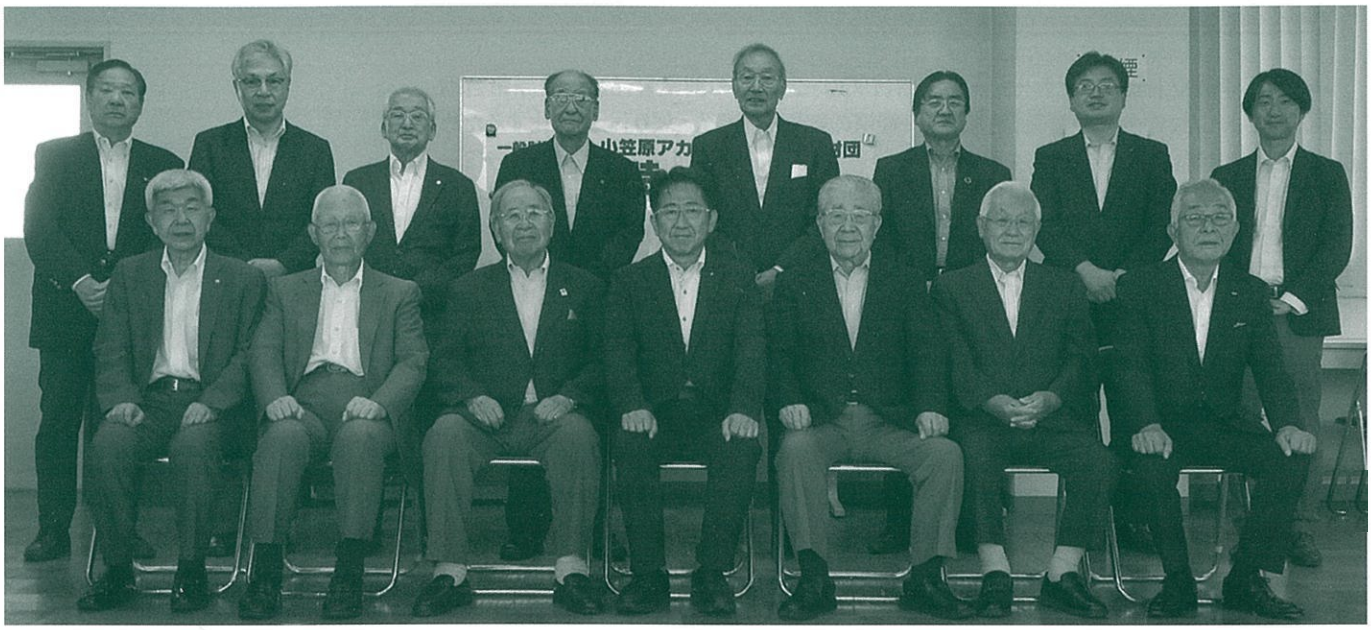
当財団から寄贈する本は、各学校（生徒・児童）で選択して自分たちの読みたい本を揃える事で誰もが気軽に利用することを目的としております。

書籍・書架一式贈呈は、2015・平成27年にスタートし、12年間で（下記の48校）に寄贈いたしました

桔梗小学校	七重小学校	湯川中学校	浜分小学校
桔梗中学校	五稜郭中学校	本通中学校	大中山中学校
藤城小学校	巴中学校	浜分中学校	上湯川小学校
北美原小学校	青柳中学校	大沼岳陽学校	北日吉小学校
亀田中学校	久根別小学校	旭岡小学校	石別中学校
谷川小学校	峠下小学校	戸井学園	大沼岳陽鈴蘭谷
軍川小学校	港中学校	石別小学校	深堀小学校
日吉ヶ丘小学校	北中学校	七飯中学校	鱒川中学校
赤川中学校	萩野小学校	亀田小学校	萩野小学校②
上磯小学校	大中山小学校	戸倉中学校	木古内中学校
大森浜小学校	駒場小学校	大野中学校	木古内小学校
中央小学校	高丘小学校	谷川小学校	茂辺地中学校

<新/第15期>設立46年・役員定時総会

<令和8年7月16日>函館新聞社ビル3階会議室に於いて



審議事項　(1号～5号議案)全議案承認



役員16名の参加で全議案決議

一般財団法人　小笠原アカデミー教育振興財団・役員

<令和8年7月16日・現在>

理事長(代表理事)　小笠原勇人

理　事	小笠原　勇　人
〃	小笠原　健　仁
〃	小笠原　　弘
〃	野　又　　肇
〃	山　本　真　也
〃	平　野　利　明
〃	竹　内　行　雄
監　事	齊　藤　一　雄
〃	村　田　亮　二

評議員	小笠原　康　正
〃	齊　藤　良　昭
〃	庄　司　澄　枝
〃	羽根田　茂　信
〃	野　村　辰　男
〃	成　田　　豊
〃	野　口　博　敏
〃	中　村　昌　弘
〃	青　田　　基

<事務局>　事務局長・事業担当／平野利明　　会計担当/竹内行雄

令和8年度／助成金贈呈先・大沼岳陽学校・男子卓球部

☆第57回全国中学校卓球大会<北海道代表出場>の大健闘を讃えて☆



七飯町立大沼岳陽学校
校長・佐藤崇行

監督・長谷川典正　アドバイザー・高橋慎吾

主将・中島旺史郎
中板紘汰・金子優翔・小林隆太
堀尊ノ介・金子龍翔

●お祝いの言葉
北海道教育庁渡島教育局長・長居成好

●助成金贈呈
小笠原アカデミー教育振興財団理事長・小笠原勇人

一般財団法人 小笠原アカデミー教育振興財団

「昭和55年設立」株式会社テーオー小笠原（1950～2017）の創業者。故、小笠原亀吉翁の意思でもあった、青少年の育英「地域社会・経済の発展を担う人づくり」を具現化するために、小笠原亀吉翁の遺産の一部を基金として後継者が、「一般財団法人小笠原アカデミー奨学財団」を設立いたしました。初代理事長は（故、小笠原金悦）、次の二代目理事長には（故、小笠原孝・令和6年3月19日逝去）です。三代目として小笠原勇人が継承することとなりました。財団は今日までに数多くの学生に奨学金を貸与して参りました。利用された数多くの学生たちは、教育者の道や、社会の第一線で活躍されております。

その後、基金の増額として、小笠原孝夫人（故、小笠原幸子）の遺産の一部と、小笠原孝理事長個人の株式の寄贈等によって更なる充実を計りました。平成24年には一般財団法人小笠原アカデミー教育振興財団に名称を改め、功績者の二代目小笠原孝理事長は、新たに教育機関などへの助成金制度を加えて、次のような育英貢献事業に取り組みました。

優秀な成績をもって、北海道を代表・全国大会出場の遠征費用や、書籍・書架一式贈呈・学校の教育資材寄贈などです。三代目理事長として引き続き教育振興に努めて参ります。



理事長（代表理事）
小笠原勇人

令和8年度10月現在・奨学生総数205名となる　助成金は46団体に贈呈／書籍・書架一式も48校となる

諸君の可能性を咲かせよう

向学心に燃える若人へ奨学金
奨学生の募集要項

【 資 格 】
- 原則として、道南地方の住民の子女であること。
- 大学、又は短大、専門学校・専修学校、高等学校に在学する者。
- 向学心に富み、かつ修業の見込みがあること。
- 経済的な理由により、就学困難な事情があること。
- 将来、国家及び社会に役立つと認められる者。

【 貸与額（月額） 】

・大学、又は大学院	25,000円
・専門学校又は専修学校、短大	20,000円
・高等学校	15,000円
※奨学金は原則として、6ヶ月分を一括貸与する。	（年2回）

【 返 還 】
- 奨学金の貸与が終了した日から1年を経過した日以後、貸与を受けた年数の3倍の期間内に返還すること。
- 返還方法は年賦、半年賦、月賦、その他の方法による。

【 申込方法 】
- 所定の用紙（在学校又は財団事務局に申請）に必要事項を記載し、必要とされる書類を添付の上、在学校を通じて申し込む。

申込期間　例年：4月1日～5月末日まで

教育の振興機関に助成金
教育機関等への助成要項

【 助成対象 】
- 学校等の教育機関及び地域社会の教育の振興に関わる機関。

【 助成額 】
- 助成額は1案件につき事業費の50%とし、上限を20万円とする。

【 申請書 】
- 申請書の様式は特に問わないが、下記事項を明記のこと。

1、事業名称・代表者名
2、事業及び費用の概要・収支計画書
3、行政からの推薦書（函館市教育委員会・渡島教育局）

〈例1〉
○○小学校□□部　全国大会（東京）へ出場が決定しましたので、旅費などの一部を助成していただきたく。

〈例2〉
○○中学校□□研究大会開催における費用の一部を助成していただきたく。

〈例3〉
○○教育団体の□□教材の充実を計るための費用の一部を助成していただきたく。

申請は随時受付（但し、理事会の承認後の決定となります。）

■詳しいお問い合わせは、当財団事務局（連絡先）へ

〒040-0061 函館市海岸町9-18　電話 0138-84-5396